

No. **9** 号
2019年7月号
(令和元年)

ひらつかの風

ひらつか市民活動センターは、さまざまな分野の市民活動団体やボランティアなどで活動されている人たちや、これから活動しようとしている人たちを応援します。

CONTENTS

- P.1 ……ひらつか市民活動センターまつり開催のお知らせ
- P.2 ……団体レポート NPO法人『ぜんしん』
- P.3 ……お役立ち情報
- P.4 ……センター情報

団体
レポート

NPO法人『ぜんしん』



センター情報

第15回 ひらつか市民活動センターまつり開催決定!!
11月24日(日) 10:00～15:30

センターまつりは、福祉の増進、環境保全、学術文化の振興、子どもの健全育成など、さまざまな分野で活躍している NPO 法人や市民活動団体を一般の方々に知っていただくために毎年開催しています。

今年も多数の市民活動団体が、模擬店・バザー・相談・体験・展示・パフォーマンス等、日頃の活動を広くお伝えします。他にも、各年代に楽しんでいただけるスタンプラリーなどの企画も用意いたします。

今年からは 1 階の崇善公民館も活用させていただき、公民館利用団体も出展予定です。ご家族、お友達などとお誘いあわせの上、是非遊びに来てください。お待ちしております。

団体
レポート

NPO法人『ぜんしん』

不登校、高校中退、ひきこもりを経験した後に、復学や就職など、ふたたび社会に出ることができた親子が支援者に。「ぜんしん」という名前は、「漸進」という言葉から取りました。ここでは、少しずつ何かのきっかけをつかみ、いろいろな困難を乗り越えながら、ゆっくりと着実に人生の道を進んでいこうという、応援のメッセージ等が込められています。

■ゲームをきっかけにした居場所づくり

かつて、コンピュータのシューティングゲームで日本一になりながらも、不登校やひきこもりの経験を持つ、理事長の柳川涼司さんが中心となり、ゲームやパソコン(インターネット)漬けで悩んでいる人とその家族の自立(回復)を支援するため、2011年10月に「ぜんしん」を設立しました。現在のスタッフは13名。主な事業は、不登校やひきこもりに悩む親子へ居場所の提供、ひきこもり等になってしまった本人の復学や就労支援、そして、各家庭等を訪問して親子に寄り添った個別相談等に応じる訪問支援です。柳川さんは昨年、多い時で、1日に7名の親子の個別相談を受け、年間約800名(延べ人数)の方々のための支援をしてきました。また、月2回程度の居場所づくりの機会も用意。今年は、「ゲーム」の意味をより広く捉え、他の市民活動団体と連携し、トランプやマジック、さらには体育館で体を動かす遊びや映像制作を楽しむこと等を、居場所づくりに生かすように努めています。



理事長の柳川さん

■大事なのは、本人の段階に応じた支援を目指すこと

ここ最近、高齢の親と中高年のひきこもりの子という8050問題への関心が高まっています。また、令和に入ってから起きた悲しい殺傷事件から、ひきこもりやコンピュータゲームに熱中する人を直ちに犯罪予備軍につなげてしまう考えもあり、誤った当事者理解が流布することを懸念しています。理事長の柳川さんは、学業や仕事を疎かにしてまでゲームに依存することを好ましくないとしつつ、「ゲームを悪いものと決めつけて取り上げるのではなく、本人とコミュニケーションをとるきっかけとして活かせる。本人が自分から殻を破り、鎧を脱いで、社会に出ていくためのヒントも多い」と話します。例えば、ゲームにおいて、効率よく短時間で、

しかもスマートに高得点を得ようとする、長期間にわたる試行錯誤を繰り返すことが求められます。

柳川さんは、「こうした試行錯誤はスポーツにおけるイメージトレーニングや、仕事の段取りを組み立てるときにも活かせるし、自活していくヒントも見つけることもできる。居場所や個別相談等では、本人たちに少しずつ気づいてもらうように、ご家族や周辺関係者と協力し、一人ひとりの回復段階に応じた個別的な支援こそが有効」と考え、各事業を展開しています。



講座イベントの看板と活動の様子

■今後の「ひきこもり」への支援活動について

8年間にわたって少しずつ実績を重ね「ぜんしん」の取り組みに共感して頂ける動きも大きくなってきました。他の市民活動団体や保健・医療・福祉機関との協力関係も強まる中、自治体との協働事業への誘いや講演依頼も増えています。また、今年に入ってから、これまでに培ってきたゲームを活用した支援ノウハウとスポーツのイメージトレーニングとの共通点に注目した、新たな支援プログラムの実施を目指し、湘南地域の民間企業との連携も具体化していく予定とのこと。柳川さんは、こうした支援の輪の広がりの一つひとつに、スタッフ全員で着実に向き合っていきたいと話されています。ぜんしんの活動に関心のある方は、ぜひお問い合わせしてみてくださいはいかがでしょうか？

お問い合わせ先 NPO法人 ぜんしん

☎ 0463-23-1177

mail: ryoz@lifestyle-cps.sakura.ne.jp

お役立ち
情報

「協働」のために必要なこと

平塚市では、これまで様々な団体が市と協働して事業を行ってきました。地域の課題が多様化している現在、今後ますます連携や協働が求められるでしょう。これまでの協働事業を振り返り、特に必要と思われる2つについてご紹介いたします。

1. ビジョンの共有

● みんなで同じビジョンを共有する

一つ目は、みんなで同じビジョンを共有することです。みんなで取り組む地域の課題に対して、メンバーそれぞれが「自分ごと」として意識した上で話し合い、解決に向けたビジョンを共有します。それぞれが専門分野や得意分野を活かして取り組む協働では、目指すビジョンが一致していれば、組織間の結束を強めスムーズに事業を行うことができます。

● 一緒に汗をかいて取り組む

行政とNPOとの協働、または企業との協働など様々な形がありますが、違う立場の人同士が協働するので、意見や考え方に違いがあるのは当然です。しかし、最初の段階でしっかり話し合い同じビジョンを共有すると、「一緒に汗をかいて取り組む仲間」という意識が芽生えます。そして、ビジョンを達成するためにそれぞれの専門分野・活動分野を活かしてどんなことができるか等について話し合っていくうちに、それぞれが課題に対して主体的に取り組む姿勢が生まれ、協働して円滑に事業を行うことが出来ます。

2. コーディネーターが存在すること

● 認識をあわせる

二つ目は、全体をまとめるコーディネーターの存在です。

様々な組織が協働して取り組む中で、認識の中に小さなズレが生まれてしまうことがあります。そんなときにコーディネーターが話し合う場をつくって認識をあわせたり、率先して行動したりすることで協働の輪が壊れることを防ぐことができます。(コーディネーターは、必ずしもリーダーでなくてよく、その役割を理解して行動する方のことをいいます)



協働の事例 ～パートナーシップでまちの課題を解決する～

NPO法人 平塚のら猫を減らす会は、平塚市との協働事業「地域猫活動」を3年間実施、その後も協働関係を継続し、本年8年目に入りました。のら猫や多頭飼等の住民トラブルは行政だけでは解決することが難しく、一方で団体にとっても関係性のない地域に入ることは簡単ではありません。市と協働することで信頼性を得、団体の専門性やノウハウを生かすことで、のら猫のトラブルが減ってきています。そのような現状から今では県内外からノウハウを学びたいと依頼が来ているようです。

また、同会は企業との協働も始まっています。平塚市明石町にある(株)ペットセレモニー WAVY(ウェイビー)が運営する譲渡型保護猫カフェ「にじのはし」には、同会が保護した猫たちがいます。保護猫の情報を持たない企業と里親探しに苦勞する同会にとって、この仕組みはまさにwin winであり、それぞれの強みを生かした協働と言えるでしょう。



協働事業を行うには面倒な事務手続きが苦手と躊躇するという団体も少なくないですが、行政とNPOは共に公共を担うパートナーであり、その効果も十分に期待されています。協働事業を行うことで活動の幅も広がり、信頼性が高まったという団体の声もあります。

協働にチャレンジしてみたい、又は提案するにはどうしたらいいか等、協働についてのご相談は、平塚市協働推進課またはひらつか市民活動センターで受け付けています。お気軽にご相談ください。(さ)

お気軽に
どうぞ!!



お問い合わせ先

平塚市協働推進課 ☎ 0463-21-9618

ひらつか市民活動センター ☎ 0463-31-7571

センター情報 1

● 団体活動にお役立てください!

8月のコミュ☆カフェ「カードゲームで学ぶSDGs」～2030SDGs 世界はつながっている～

「SDGsって何?」という方も、「言葉は知っていても、内容まではよく知らない」という方も、ぜひご参加ください。「SDGsの17の目標を達成するために、現在から2030年までの道のりを体験しよう」カードゲーム「2030SDGs」を使ったワークショップです。

日時 ● 8月21日(水) 14:00～16:30

講師 ● 小野 利隆氏 湘南SDGsネットワーク代表、2030SDGs公認ファシリテーター

定員 ● 50名 参加費 ● 500円(学生無料) 場所 ● ひらつか市民活動センター AB会議室

市民活動応援講座第2回「SNSを活用した資金調達のコツを学ぼう！」

NPO法人、市民活動団体にとって活動資金の確保は重要な問題です。本講座は、資金調達(寄付促進・SNSの活用)の方法を具体的に学べる講座です。当日は、日本郵便年賀寄附金配分事業説明会を同時開催します。助成金をご検討中の団体さんも是非ご参加ください。

日時 ● 9月22日(日) 14:00～16:30

講師 ● 平田 昇氏(NPO法人 平塚のら猫を減らす会 理事長)・日本郵便株式会社 年賀寄附金配分事業担当者

定員 ● 30名 参加費 ● 500円(資料代) 場所 ● ひらつか市民活動センター AB会議室

● 新規登録団体のご紹介

2019年(令和元年)3月～6月にかけて登録された市民活動団体をご紹介します。

- 平塚中国語読書会 No503 (学術、文化、芸術又はスポーツの振興)
中国語の読書を通じて、登場人物と出会い、作者と出会い、読み友と出会う!
- くらぶママの休日 No504 (保健、医療又は福祉の増進)
子育て中のお母さん、お父さんのリフレッシュと学習。
- 平塚フィルハーモニー管弦楽団 No505 (学術、文化、芸術又はスポーツの振興)
年2回の自主公演をはじめの出張コンサートなどの幅広い活動を積極的に行なっています。
- ひらつか着地型観光推進委員会 No506 (観光の振興)
官民連携による新たな平塚市の「魅力あるまちづくり」に観光の視点から取り組みます。
- SDGs 湘南ネットワーク No507 (まちづくりの推進)
美しく未来へ先駆けよう SDGs!



※ひらつか市民活動センターのHPに詳しい情報が載っています。

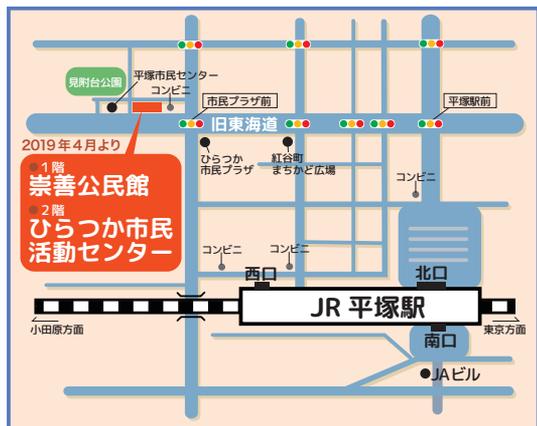
平塚市 市民活動団体

検索!

編集後記

市民活動センターが見附町に移転し早3か月。移転先がわからず迷いながらセンターに来てくださる団体さんや、崇善地区周辺で活動されている方々が新たにセンターを活用して下さったりと、徐々に地域に馴染んで来ているように思います。

さて、今夏も『夏のユースボランティア2019』が始まります! たくさんの若者たちがボランティア活動でまちに繰り出しますので、どうぞ温かく見守ってくださいますようお願いいたします。(スタッフ一同)



編集・発行

ひらつか市民活動センター

(開館時間 9:00～22:00 年末年始、施設点検日を除く)

〒254-0045

神奈川県平塚市見附町1-8

TEL ● 0463-31-7571 FAX ● 0463-35-6601

Eメール ● info@hiratsuka-shimin.net

URL ● http://hiratsuka-shimin.net

センター登録団体数(2019年6月15日現在)

登録団体数 ● 484 団体

(内訳 市民活動団体…356 団体、一般団体…128 団体)

